

愛称「サーボ」について

相良原子力防災センターが、周辺住民に親しみをもちもらえる施設となるよう、相良地区の皆さんおよび相良小・中学校の在校生を対象に、愛称を募集しました。審査の結果、応募総数133作品の中から、植田獅星さん（相良中学校1年）の作品「サーボ」が採用されました。これは、相良の「サ」と防災の「ボ」とったもので、地域の皆さんに分かりやすく、覚えてもらいやすい愛称となりました。完成式典で市からの感謝状を受け取った植田さんは「地域の人が安心して使えるような施設になってほしい」と話してくれました。



「サーボ」を考案した植田さん(左)と杉本市長



完成式典でのテープカット

次々と完成！放射線防護施設

市では、原子力災害時に長距離避難が困難な要配慮者とその介助者が一時的に避難する「放射線防護施設」を整備しています。完成した施設の概要などについてお知らせします。

問い合わせ 危機管理課 羽田敦 ☎0058



4月9日の完成式典の様子

原子力防災センターの設備・部屋など

- ▶陽圧化「空気清浄」装置＝プレフィルターで砂塵などを除去し、メインフィルター（HEPA・活性炭）で放射性物質などを除去します。放射性物質除去後の清浄な空気を施設内に給気します。
- ▶非常用発電設備＝商用電源が喪失した場合でも、陽圧化装置などを稼働するための発電設備です。
- ▶差圧計＝屋内の空気圧を測定して、陽圧化装置の稼働状況を把握します。
- ▶鉄筋コンクリート構造＝建物の中にいることで、屋外からの放射線による外部被ばくはある程度防護できますが、鉄筋コンクリート構造の建物であれば、より効果的に放射線を防護できます。
- ▶鉛入りカーテン＝窓部への設置で、放射線の遮へい能力を高めています。
- ▶気密性の確保＝玄関出入口の二重扉化や、壁および窓枠などの補強により、気密性を高めています。



避難室（会議室）



避難室（和室）



陽圧化「空気清浄」装置

所在地	牧之原市須々木150番地
工期	令和3年6月～令和4年3月
事業費	6億169万2500円 *建物建設は国の補助金を活用しています (建築工事＝5億7475万円、設計＝1650万円、施工監理＝1044万2500円)
構造・規模など	鉄筋コンクリート（RC）造2階建 建築面積＝737平方メートル、延べ面積＝1434.25平方メートル *約250人収容可能
部屋・設備など	避難室8部屋（うち和室2部屋）、管理室、備蓄倉庫（資機材・物資）、機械室（陽圧化「空気清浄」装置）、非常用発電設備（軽油）、鉛入りカーテン、給湯室、トイレ など

相良原子力防災センター「サーボ」が完成

市では、PAZ圏内（原子力施設からおおむね半径5キロメートル圏内）の要配慮者（長距離避難による健康リスクのある人や介助者など）が、原子力災害時に、被ばくのリスクを下げながら安全に一時的な屋内避難を行うための「放射線防護施設」を整備しています。

本年3月に、県内2番目となる新設の要配慮者用放射線防護施設「相良原子力防災センター」（愛称「サーボ」）が完成しました。この施設は、建物の気密性を確保するとともに、放射性物質を除去できる換気設備を取り付けています。また、施設内に、避難時に必要な水や食料のほか、生活用品などを備蓄しています。平常時には、打ち合わせや会合などで利用可能な施設です。で、地域の皆さんはぜひ活用してください。

なお、敷地内に整備を計画している多目的体育館の完成までは、「相良総合センター」「いぐら」側からお入りください。

市内の整備状況

市全体では、要配慮者などの参集型避難施設が約1200人

分必要です。相良地区においては、約250人の要配慮者などが避難する施設が不足しているため、「いぐら」南側に、多目的体育館（エアシエルト）の整備を計画しています（令和5年度中に完成見込み）。今後も引き続き、整備を進めていきます。

完成済みの放射線防護施設

- 「現地災害対策拠点施設」
静岡市牧之原消防署（平成27年度完成）
- 「社会福祉施設」
介護老人保健施設はるかぜ（平成28年度完成）
養護老人ホーム相寿園（平成29年度完成）
- 「エアシエルト（施設内に設置したエアシエルト（テント）を展開するもの）」
菅山小学校体育館（平成30年度完成） 収容可能人数約140人
御前崎中学校体育館（平成30年度完成） 収容可能人数約180人
相良B&G海洋センター（令和元年度完成） 収容可能人数約140人
- 「新設放射線防護施設」
地頭方原子力防災センター「サーボ」（令和元年度完成） 収容可能人数約260人